

1章

問題

【1】

ポイント

仮定法の様々な形を復習していくことから始めよう。

解答・解説

A.

(1) If, hadn't been もしくは Had, not been

「もし彼の助けがなかったら私は失敗していただろう。」

If it had not been for ~ = Had it not been for ~ = But for ~ = Without ~ はいずれも仮定法過去完了の文脈で「もし~がなかったら」の意味を表す。

(2) I'd (= I had)

「もし彼の苦難を理解していたならばそんなこと言わなかつただろう。」

仮定法過去は「現在についての仮定」を表し、仮定法過去完了は「過去についての仮定」を表す。本問でも if I understood だと「今私が理解すれば」となり、if I had understood なら「あのとき私が理解していたら」という意味になる。帰結節を見ると would not say so 「今そう言わないだろう」ではなく、would not have said so 「あのときそう言わなかつただろう」である以上は仮定法過去完了の if I had understood が答えとなる。あとは I had = I'd と書き換えられればよい。

(3) Should (= If I should fail)

「万一失敗してもまた試みるつもりだ。」

If I fail と直説法の条件節にすると、帰結が I would try なので違和感がある (If I fail, I will try again. なら可)。そのため、If I should fail (= Should I fail) と仮定法の条件節にするのがよい。If を消去するとその後の主語と助動詞は倒置されることに注意。

一般に if S should ~ の条件は「『万一~ならば』」という意味で、事態の発生は不明だが話し手が可能性が少ないと思っている仮定に使われる。ただし、絶対に起こりえないことの仮定には用いない」と説明される。

(4) Should (= If anything should happen to you.)

「万一何か起こったら、私に電話してください。」

直説法ならば If anything happens to you, と 3 単現の s が付くはずである。そのため、If anything should happen to you, の if を消去して Should と anything を倒置させる。

(5) Were (= If the sea were to dry up.)

「万一海が干上がっても、私は気持ちを変えないだろう。」

If では動詞がなくなってしまう (to dry であることに注意)。そのため If S were to do, という条件節をイメージできればよい。これも If が消去されて倒置になっている。

if S were to ~ の条件は全くありえない場合に用いる、とされることもあるが、いわゆ

る be to *do* が仮定法になったものも含むため、厳密には可能性のある仮定にも用いられることに注意。

(6) was

「そろそろおいとまする時間です。」

○ It is time + 仮定法過去「～する時間だ」

(7) as

「彼はいつも何でも知っているかのように話してばかりいる。」

○ as if S V (= as though S V)「まるでSがVであるかのように」

(8) should

「この法案が国会で可決されることが重要だ。」

必要性や重要性を表す形容詞 (important, essential, necessary など) の後には仮定法現在かそれに代わる should *do* の形が来る。仮定法現在とは端的に言えば動詞の原形であることにも注意。

(9) should

「私たちは直ちに行動するように提案された。」

提案や要求を表す動詞 (suggest, propose, insist, command, ask, require, recommend など) のあとには仮定法現在かそれに代わる should *do* の形が来る。

(10) rather [sooner]

「家にいるくらいなら出かけた方がました。」

would rather A than B = would sooner A than B = would as soon A as B = might as well A as B 「BするくらいならAした方がました」という意味の構文。

B.

ポイント

仮定法は直説法の裏返しとも言われる。仮定法の裏に潜む事実を直説法で表現することで両者の違いを再認識しよう。

解答・解説

(1) As you haven't shaved off your beard, you do not look young.

「ヒゲを剃らないから若く見えないんですよ。」→「もしヒゲを剃れば、若く見えるかもしれません。」

(2) As I didn't bring my digital single-lens reflex camera, I couldn't take any beautiful pictures.

「デジタル一眼レフを持ってこなかったのが、美しい写真を撮れなかった。」→「デジタル一眼レフを持っていたら、美しい写真を撮れたのに。」

C.

ポイント

今度は、直説法で書かれている事実に基づき、その逆の内容を仮定法で記してみよう。

解答・解説

(1) If you hadn't eaten too much lunch, you would not be so sleepy now.

「もしお昼を食べ過ぎなかったら、今頃そんなに眠くなっていないのに。」←「たくさん食

べ過ぎたので、今とても眠いのです。」

条件節は仮定法過去完了（昔の仮定）だが帰結節は仮定法過去（今の帰結）の形にする。

(2) I wish I could make it tonight.

「今晚都合を付けられればよいのに。」←「今晚都合を付けられなくて残念です。」

○ I'm sorry ~ 「～なんて残念です」⇔ I wish ~ 「～なら良いのに」

【2】

ポイント

それぞれの出題意図を正確につかんで、仮定法の理解を深めよう。

解答・解説

(1) **b** 「もしかして私が試験に落ちたらどうすれば良いのだろうか。」

if S should ~ の形にする。

○ by any chance 「ひょっとしたら」

○ fail in the exam 「落第する」

(2) **b** 「もしステーキブーンがどれほど成功を取めるかを知っていたなら、私どもは彼を会社に残していただろう。」

帰結節は仮定法過去完了である。また、even if S V だと「たとえ S が V だとしても」では意味がおかしくなる。

(3) **a** 「もしあなたが宇宙飛行士であるなら、地上の人々にどんなメッセージを送るだろうか。」

if S V の代わりに suppose (that) S V, supposing (that) S V, providing (that) S V, provided (that) S V が使われることがあるが、仮定法の条件として使うことができるのは前者の suppose (that) S V と supposing (that) S V だけである。また、Unless S V も、仮定法の条件として用いられるのは極めて稀である。

(4) **a** 「もし彼らのチームの最後のバッターが遂にツーベースヒットを打たなかったら、彼らのチームは負けていただろう。」

条件節が仮定法過去完了であるため帰結節もそれに合わせる。

(5) **c** 「もしあなたが助けてくれなかったら、私たちはこのプロジェクトを成し遂げられなかっただろう。」

帰結節が仮定法過去完了であることに注意。Had it not been for your help, = Without your help, = But for your help, となる。

○ accomplish 「～を成し遂げる」

(6) **c** 「息子がもっと上手くプレーしていたならばなあ。」

wish (that) の後には仮定法が来る。

(7) **d** 「もしもう少し努力していたら、彼女は立身出世していただろう。」

仮定法の条件は必ずしも if 節ばかりではない。このように副詞句が条件を含む場合もある。But for ~ = Without ~ 「もし～がなかったら」とか、Owing to ~ = On account of ~ 「～のために」では意味が通らない。

(8) **c** 「娘はよくやった。しかし彼女だったらもっと上手く出来ただろう。」

接続詞 but に注意する。なお、She couldn't have done better. は、「彼女はこれ以上上手くできなかっただろう（と言うくらい上手くやった）」という意味になる。

(9) c 「父が助けてくれなかった方がよかった。一人でだって出来ただろう。」

I'd rather = I wish となり、仮定法を伴う。

(10) b 「嵐が私たちの地域を通り過ぎるまで家にいるように勧告された。」

advise は、いわゆる「要求・提案の動詞」であるため、that 節内を仮定法現在にする。もちろん、It was advised that we should stay home ~. としてもよい。

【3】

ポイント

会話文を読んで内容をつかむ訓練を行うと同時に仮定法を正確に記述する演習を行う。

解答・解説

(1) ① d

go into labor 「陣痛を起こす」が難しいが、次いで赤ちゃんが生まれたことがわかるので、旅行をキャンセルしたと予想する。

② b

instead of ~ 「~の代わりに」、in spite of ~ 「~にもかかわらず」、regardless of ~ 「~には関係なく」、contrary to ~ 「~とは正反対で」

③ d

直前で Mary は金銭面を不安に思っているところから判断する。

○ afford 「~するだけの金銭的余裕がある」

④ c

recommend があるため仮定法現在もしくはその代用である should を用いた選択肢を考える。d では意味が通らない。c にすれば、内容的にも「私たちが売り出すツアーを調べてみることを勧める」となり意味が通る。look into ~ 「~を調べる」

(2) We could have gone (if we'd wanted to).

仮定法過去完了で書く。条件を表す if 節は、この場合は言わなくてもわかるため省略可能。

全訳

ジョン：昨年僕たちはドイツに行こうとしたんだけど、出発日前日に妻の陣痛が始まっちゃって、旅行をキャンセルしたんだ。

メアリ：へえ、幸せな人ね。ドイツツアーの代わりに赤ちゃんを手に入れたのね。

ジョン：まあね。行こうと思えば行けたんだ。娘が生まれた6時間後に妻は退院出来たから。

メアリ：女の子が生まれたなんて素敵ね。ところで私もドイツに興味はあるけど、旅行できるお金があるかわからないの。

ジョン：実際はそんなに高くないよ。私たちが売り出しているツアーを調べてみるのを勧めるけど。

メアリ：売り出している？ あなたが旅行代理店の人だなんて知らなかったわ。

【4】

A.

全訳

話せるようになりつつある子供は、絶えず誤りを正されることによって学ぶのではない。なぜなら、誤りを直され過ぎると、子供は話すことをやめてしまうからである。子供は、自分が使う言葉と、自分の周りにいる人たちが使う言葉の違いに、1日に数えきれないほど注意を向けるのである。

B.

全訳

私は、生物学者、そして生化学者として教育を受け、またその方面に専念しています。私の知識の多く、また、私の多くの洞察は、大部分、生物体系の研究や生物体系への愛着からきたものです。

C.

解答

下線部和訳はそれぞれ「全訳」の下線部①、②参照。

- ① training
- ② 妥協しないこと

全訳

規律なくして教育はあり得ない。生徒はまず努力することができるようにならなければならない。①意志の訓練が知能の訓練に先行するか、あるいは少なくとも知能の訓練と相伴って行われなければならないのであって、このため家庭での教育が決して大きな成功をおさめない。口実をあまりにも簡単に受け入れてしまうからである。例えば、頭が痛いとか、よく眠れなかったとか、どこかでパーティーが催される、とかいった子供の口実を。②学校は妥協しない、そしてその妥協しないことが学校の長所なのである。

【5】

解答

- (1) ① b ② d
- (2) 無理やり自らの思考を言語化することで、認識能力や洞察力が低下すること。
- (3) 「全訳」の下線部③、④参照。
- (4) mother

解説

(1)

①

- ◇ I suspect you could (pick that person out of a police lineup). と補って考える。
- suspect の意味は以下の通り。doubt との違いに注意。
- suspect = to think that something is probably true, especially something bad; to imagine to be true or probable
- Ex. I suspected that there was something wrong with the engine.

= I thought that there was something wrong with the engine.

(エンジンが何かおかしいのではないかと思った。)

cf. doubt = to think that something may not be true or that it is unlikely; to hesitate to believe

Ex. I doubt we'll ever see him again.

= I don't think we will ever see him again.

(彼にはもう2度と会わない。) I think ~ never とはしない。

○ pick = to recognize someone or something in a group of people or things

○ police lineup = lineup

ⓑ

◇ otherwise : used when saying what would have happened or might have happened if something else had not happened

Ex. We were delayed at the airport. *Otherwise* we would have been here by lunch time!

= We were delayed at the airport. *Otherwise* (= If we hadn't been delayed at the airport,) we would have been here by lunch time!

◇ describe = to say what something or someone is like by giving details about them

◇ the first time

ℓ. 1 *Picture, in your mind, the face of the waiter or waitress*

ℓ. 2 if I were to ask you to pick that person out of a police lineup

◇ the second time

○ suppose I were to ask you to take a pen ~ what your person looks like

you will now do a lot *worse* at picking that face out of a lineup (than *the first time*)

the second time

ℓ.9 This is because the act of describing a face has the effect of impairing your (ability)

otherwise effortless ability to recognize that face → the first time

(2)

◇ verbal = of words or using words < word

◇ overshadow = to make someone or something else seem less important

○ verbal overshadowing (effect) 「言語隠蔽効果」《心理学用語》

○ verbal overshadowing の内容は以下に説明されている。

= it (ℓ.11)

= this effect (ℓ.11)

= the effect of impairing your otherwise effortless ability to recognize the face (ℓ.9)

※ otherwise = if you do not describe the face in words



- verbalize that memory (ℓ.24)
- explain yourself (ℓ.24)

- impair = to damage something or make it not as good as before
- Schooler has shown that the implications of verbal overshadowing carry over to the way we solve much broader problems. (ℓ.26)

視覚情報を言葉に置き換える行為 (= 言語化) によって、視覚情報を再認識する際の認知能力や、課題に対する洞察力が低下する。本文後半の洞察力を試す課題では、「医師」という言葉から我々が自動的に「男性医師」を想起するという問題が起きており、ℓ.24～に沿って、より一般化して解答すればよい。「無理やり自らの思考過程を言語化することで、認識能力や洞察力が低下すること〔現象〕とする。あるいは、「自らの思考過程を(強制的に)言語記述すると、視覚情報の再認や問題の洞察に悪影響を及ぼすこと」などでも可。

(3)

①

◇ 〈When you were faced with the lineup the second time around〉 副詞節

what you were drawing on was

S

V

{ your memory of what ~ looked like,
not your memory of what ~ looked like

C

- faced with the lineup = faced the lineup
- police lineup (= lineup) 《米》
= a row of people who stand in front of a witness to a crime, who is then asked if he or she recognizes any of them as the criminal
- the second time around [round] = the second time something happens
- what you were drawing on
- what は the thing which の意味。
- draw on = to use information, experience, knowledge, etc. for a particular purpose
- your memory 〈of what you *said* the waitress looked like〉
- what you said the waitress looked like



What did you say the waitress looked like? の間接疑問

②

◇ You need to make a leap beyond *the automatic assumption*

同格節 {that ~ always men}.

- leap = a sudden or large movement or transition
- beyond = outside the range or limits of something or someone ;

on or to the further side of something

○ automatic assumption that ~ ← automatically assume that ~

○ They (= Doctors) aren't always (men) , of course. = Not all doctors are men.

(4)

○ They (= Doctors) aren't always men, of course.

→ The doctor is a female doctor.

つまり、The doctor is the boy's mother. ということ。

全訳

あなたが最後にレストランで食事をした時に、食事の世話をしてくれたウェイターかウエイトレスの顔を脳裏に描いてみよ。最近会った見ず知らずの人なら誰でもよい。さて、もし私とその人物を、面通しのために並んだ容疑者の列から選び出すように頼んだら、それはできるだろうか。恐らくできるだろうと思う。顔の認識は無意識の認知の典型例である。それに関しては何も考える必要はない。顔はただふっと頭に浮かんでくるだけである。しかし、あなたに紙とペンを取って、頭の中の人物がどんな外見かできるだけ詳しく書くように頼んだとしたらどうだろう。その人の顔の特徴を述べてみよ。髪は何色だったか。どんな服装をしていたか。何か宝飾品を身に着けていたか。信じられないかもしれないが、今度は前よりずっと容疑者の中からその人物の顔を見分け難くなるだろう。これは、顔について説明するという行為には、そうでなければ、顔を楽々と認識できる能力を損なう効果があるからだ。

心理学者ジョナサン・W・スクーラーは、この効果に関する研究の先駆者で、これを言語隠蔽効果と呼んでいる。脳には言葉で考える部分（左脳）と、画像で考える部分（右脳）があり、顔を言葉で表現した際、それが実際に目で見た記憶と置き換わるということが起きた。思考が右脳から左脳に移動したのである。①2回目に容疑者の列を目の前にした時に頼ったのは、そのウエイトレスがどんな姿か自分が「話した」記憶であり、彼女がどんな姿か自分が「見た」記憶ではなかった。そして、顔のことでは、言語表現よりも視覚認知の方がかなり優れているので問題なのだ。もし、あなたにマリリン・モンローやアルバート・アインシュタインの写真を見せたら、2人の顔を瞬時に認識するだろう。たった今、2人の顔とも頭の中でほぼ完璧に「見る」ことができるのではないかと思う。だが、2人の顔についてどれだけ正確に説明できるだろうか。仮に、あなたが誰について書いているかを私に教えずに、マリリン・モンローの顔について短い文を書いたとしたら、私はそれが誰かを当てられるだろうか。私たちはみんな顔に対する本能的な記憶力がある。しかし、私が無理やりその記憶を言葉で表現させると——つまり、自らの思考をはっきりと説明させると——そうした本能から切り離してしまうのだ。

顔の認識は非常に特殊な行為のように思われるが、スクーラーは言語隠蔽効果の影響は、もっとずっと広範な問題の解決方法にも影響を及ぼすことを証明した。次の謎を解いてみよう。

1人の男性とその息子が重大な自動車事故に遭う。父親は死亡し、息子は救急処置室に急搬送される。到着すると同時に、担当医はその子を見て「この子は私の息子だ！」とあえぎながら言う。その医師は誰なのか。

これは洞察問題である。紙と鉛筆を使い、系統立てて答えを導く数学の問題や論理的問題のようなものではない。瞬時に突然ひらめかなければ答えは出せない。㊦頭から医師は常に男性だと決めてかかるようなことは止めなければならない。もちろん、医師は必ずしも男性とは限らない。その医師はその子の母親なのだ！

注

- ℓ. 1 ◇ mind = your thoughts or your ability to think, feel, and imagine things
Ex. A plan began to form in his mind. (ある計画が彼の頭に浮かび始めた。)
- ℓ. 4 ◇ cognition = the process of knowing, understanding, and learning something
- ℓ. 5 ◇ it は recognizing someone's face を指す。
◇ pop = to go somewhere quickly, suddenly, or in a way that you did not expect
◇ suppose [supposing] (that) ~ : used when talking about a possible condition or situation, and then imagining the result
Ex. Supposing it really is a fire! (もしそれが本当に火事だったら！)
- ℓ. 8 ◇ believe it or not : used when you are saying something that is true but surprising
- ℓ. 9 ◇ the act of describing (= the act that you describe) ~ has the effect of impairing
(= has the effect that it impairs) ~ : of は「同格」の前置詞。
- ℓ. 11 ◇ pioneer = to be the first person to do, invent or use something
- ℓ. 12 ◇ hemisphere = one of the two halves of your brain
- ℓ. 15 ◇ bump = move someone or something into a different class or group, or to remove them from a class or group altogether
- ℓ. 20 ◇ fraction of a second = very short time
- ℓ. 23 ◇ have an instinctive memory = be able to remember things instinctively
○ instinctive = based on instinct and not involving thoughts
- ℓ. 24 ◇ verbalize = to express something in words
◇ explain oneself
① to tell someone who is angry or upset with you the reasons why you did something
② to say clearly what you mean
- ℓ. 27 ◇ implication = a possible future effect or result of an action, event, decision, etc.
◇ carry over to = if something is carried over into a new situation, it continues to exist in the new situation
- ℓ. 30 ◇ attending doctor = a doctor who has final responsibility, legally and otherwise, for patient care
- ℓ. 34 ◇ in the blink of an eye = very quickly

【6】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
(2) 「全訳」の下線部②参照。

- (3) c shone
 (4) to see how cunningly I thrust it in
 (5) a

解説

- (1) above all は「何にも増して；とりわけ」という意味の前置詞句であり，was = V，the sense of hearing = S，acute = C と倒置形になっていることに気がつけばよい。
 (2) 直訳だと「その老人に対してその1週間以上に優しくかったことはなかった。」となるが，内容を汲んで「その1週間がそれまでで最も優しくかった」などと訳せば良い。

Ex. I never felt more alone than at that time in my life.

≡ I felt most alone at that time in my life.

(私はその時，今までの人生で最も孤独だと感じた。)

- (3) (so) that no light shone out 「光が全く漏れないように」と考える。目的構文の 'so that S may [can ; will] ... (SがVするために...)' においては1語省略され，so S can ... や that S may ... などとなることも多いが，単に that S V となることもある。

- make out A 「Aを理解する [見分ける]」
- carry out A 「Aを実行する」
- put out A 「Aを消す」
- go out 「消える」
- shine の過去形は shone (輝く) と shined (~を磨く) の2つがあることに注意。

- (4) 前の部分の put in a dark lantern や I thrust in my head などの in は前置詞ではなく副詞「中へ；中に」であるが，それと同じくこの箇所の in も前置詞ではなく副詞であるから，thrust in it とはならず thrust it in となることに注意。

Ex. He looked at the book. → He looked at it. (at は前置詞)

(彼はその本を見た。)

He looked up a word in a dictionary. → He looked it up in a dictionary. (in は副詞)

(彼は辞書でその単語を調べた。)

- (5) I might not disturb の not を見落とさないように。(3) と同じ目的構文となる。もし for fear S V (SがVするといけないので) であるなら，for fear I should disturb ~ のようになる。even though S V (SはVであるとしても) は意味が通らない。provided that S V (もしSがVならば；SがVという条件で) も不自然。

全訳

本当なんです！ 神経質に，それもかなりひどい神経質になっていて，今でも続いています。でもなぜ私の気がおかしいと言うのですか。病気のために神経が鋭くなっていたのです。でも私の感覚は鈍りも壊れもしませんでした。①何にもまして聴覚が鋭くなっていたのです。天国と地上のあらゆる音が聞こえていました。地獄の音もたくさん耳にしました。だったらどうして私の気がおかしいのでしょうか？ 聞いてください！ 私がどれほど健全に，どれほど冷静に全てをお話できるかを見ていてください。

そもそもどうしてこんな考えを最初に思いついたのか言うことは出来ませんが，一度思いつくと，昼夜問わずその考えが頭に憑いたのです。目的などはありませんでした。熱意など

もなかったです。私はあの老人を好きでした。彼から不当な扱いを受けたことは一度もありませんでした。侮辱を受けたことも全くありませんでした。財産欲しさの欲などありませんでした。思うにあの老人の目だったのです！　そうです。まさにそうなのです。あの老人は、ハゲワシのような目、つまり膜の張った淡い青色の目をしていたのです。あの眼が私に注がれると、私の血は凍りつきました。そうして私は次第に、非常にゆっくりと、彼の命を奪い去りあの目を永遠に自分の前から消し去ろうと決意したのです。

さて、ここが大切なところです。あなたは私が狂人だと思っている。狂人なら何も分かりません。しかし私のことを見るべきだったでしょう。私がどれほど賢く行っていったのか、どれほど用心をして、どこまでも先を見据えて、どれほどさりげなく仕事に取り掛かったのかをあなたは御覧になるべきだったでしょう。②その老人を殺害するまでの1週間、私はその男に対してそれまでないくらいに優しく接したのです。そして毎晩、真夜中近くになると、私は老人の部屋のドアの掛け金を回して扉を、それはそれは優しく開けたのです。それから自分の頭を入れられるくらいのすきまを作って、一筋の光も外へと漏れないように完全に覆いを掛けた真っ暗な手提げランプを中に入れて、それから私の頭を中に入れました。どれほど上手に私が頭を入れたかを御覧になれば、あなたはお笑いになったでしょう。私は頭をゆっくりと、とてもとてもゆっくりと動かしました。そのためその老人の眠りを妨げるようなことはなかったでしょう。

【7】

解答・解説

(1) If I take this Shinkansen (Express) , I will arrive in time.

この時点では新幹線にも乗れるし飛行機にも乗れる。どちらもまだ現実的と言えるので直説法の条件文にすればよい。

(2) If I should take this Shinkansen (Express) , I would [will] arrive in time.

十中八九乗れないと思っているのであるから、If S should ~の形式にすればよい。shouldを用いる条件節は、発言者が絶対にありえないと思っているにすぎず、現実的にはありうる場合も含むため、帰結節は直説法も用いられる。

(3) If I took this Shinkansen (Express) , I would arrive in time.

すでに乗れないことが確定しているので、仮定法過去にする。

(4) If I had taken that Shinkansen (Express) , I would be in Osaka now.

条件節は過去のこと、帰結節は現在のことを述べていることに注意。

(5) If I had taken that Shinkansen (Express) , I would have arrived in time.

過去の反実仮想を述べるのに典型的な形式が仮定法過去完了である。

【8】

解答・解説

(1) otherwise

「彼は話し過ぎる。そうでなければもっと賢そうに見えるだろうに。」

otherwise 「もしそうでなければ」

(2) Left alone

「もし彼女が1人残されていたら、道に迷っていたかもしれない。」
分詞が条件節の代用をしている例。

(3) to be [were he]

「この面倒全てがかかからなくなるとすれば彼は非常に喜ぶだろう。」
to 不定詞が条件節の代用をしている例。

if he were の if が省略された倒置形と考えて were he も可。

○ spare A B 「AにBの苦勞などをかけないように気を配る；与えないで置く」

(4) Supposing [Suppose ; Say]

「もしその噂が本当ならば、あなたはどうしますか。」

Suppose [Supposing ; Say] (that) ~ 「もし~ならば」

Provided [Providing] (that) ~ ; Granted [Granting] (that) ~ は節内に仮定法を用いないのでここでは不可。

(5) With, care

「もう少し注意していたら、彼はその事故を避けることができただろう。」
副詞句が条件節の代用をしている例。

(6) Listen to, or

「お医者様の言うことを聞かなければ、よくなりませんよ。」

‘命令文 …, or ~’ 「…しなさい；さもなければ~」

Unless you listen to the doctor = If you don't listen to the doctor

【9】

解答・解説

(1) will

条件節の動詞が find と現在時制であることから、本文は仮定法ではなく直説法の条件文であることに注意する。なお if 節は条件を表す副詞節なので、意味上は未来のことが現在時制で表されている。

(2) would come 《仮定法過去, 帰結節》

(3) had known 《仮定法過去完了, 条件節》

(4) knew, could read 《仮定法過去, 条件節及び帰結節》

(5) had been, wouldn't have sunk 《仮定法過去完了, 条件節及び帰結節》

○沈没する：sink (-sank-sunk)

2章

問題

【1】

ポイント

形容詞節とは関係詞 (who, which, that, when, where など) によって導かれる節で、文中の名詞・代名詞 (これらは先行詞と呼ばれる) を修飾するものを言う。ここでその基礎を確認していく。

解答・解説

- (1) as 「すべての年齢の子供に興味を与えるような本を書くのは難しい。」
先行詞に such があるので which ではなく as が入る。
- (2) where 「新しいスーパーの店内には実演販売が行われる食品コーナーもある。」
The new supermarket contains a food corner. + Sales demonstrations are held in it.
in it が関係副詞 where になる。
- (3) which 「これは、すべての子供に付与しなければならない権利のひとつだ。」
This is one of the rights. + Every child must be entitled to them.
to them が to which となる。いわゆる '前置詞 + 関係詞' の形。
- (4) whom 「この金庫は許可を与えられた人のみが開けることができる。」
This safe can be opened only by those (people). + Permission is given to them.
to them が to whom となる。(3) と違い先行詞は人であるため whom になる。
- (5) when 「私達が月に旅行できるような時がすぐに来るだろう。」
The time will soon come. + We can travel to the moon then.
then が関係副詞 when になる。

【2】

ポイント

【1】で見たように「形容詞節」とは「関係詞が導く従属節」なので、この設問は「関係詞を用いて1文にしなさい」というのと同義である。またその際には、どの英文を主節とすべきかを決定する内容把握力も必要となる。

解答・解説

- (1) Stephen is the boy who I think will succeed in life.
「スティーブンは、立身出世するだろうと思う少年だ。」
he → who にする。
- (2) The lady who came in your absence yesterday is now at the door.
「昨日あなたが不在のときに見えた女性が今玄関にいます。」
she → who にする。
- (3) What did you do with the ruffled cap which you used to wear?

「よく被っていたフリルの付いた帽子はどうしたんですか。」

全体としてまとめると疑問文になるので、後者を主節にして1文にする。which は that でもよいし、省略してもよい。

- (4) The man, whose wife is a Japanese, doesn't know Japanese at all.

「その男性は、奥さんが日本人なのに、日本語をまったく知らない。」

his wife → whose wife となる。

- (5) I lived in Kyoto for two years, during which time I visited almost all the temples.

「私は京都に2年住んでいましたが、その間にほとんどすべてのお寺を訪れた。」

during that time → during which time とする。この which は関係形容詞と言われる。原則として非制限用法で用いられて and [but] + this [that ; the] の意味になる。

- (6) Christmas is the day when we celebrate the birth of Christ.

「クリスマスはキリストの生誕をお祝いする日だ。」

then を関係副詞 when にする。

- (7) Foods that you may eat every day which you actually don't like will digest poorly.

「毎日食べるかもしれない食品で、かつ、あなたが好きではない食品は、消化が悪いだろう。」

第3文に will digest があり「消化が悪いでしょう」と未来のことを表しているの、これを主節に設定するのが書きやすいだろう。すると、第1文の such foods と第2文の them が関係詞になって foods を修飾する。このように複数の関係詞節が接続詞を介さずにつながるものを（関係詞の）二重制限（二重限定）などと呼ぶ。二重制限では、初めの関係詞が省略されることがあるが、2番目（以降）の関係詞は省略しない。また、訳す際にも原則として前の関係詞節から訳していく。

【3】

ポイント

形容詞節と言っても、先行詞の後に漠然と置かれているわけではなく、元来あった英文の一部が関係詞として節の先頭に来ることで出来ている。それぞれの英文が、どのような接続関係になっているのかを考えながら解いていこう。

解答・解説

- (1) d 「その日は、始めは天気がよかったが、最後にはひどい嵐となった。」

opened の主語になる関係代名詞 which を選ぶ。It opened brightly. という英文を考える。

- (2) c 「科学技術は、私たちの親の世代ですら信じられなかったであろう世界を作り上げたということを、私たちは皆気づいている。」

which は形容詞節内で、believe の目的語になっている。Even our parents could not have believed it possible. という英文を考える。

- (3) c 「素菜は、人間の健康のために必要とする栄養分を人間に与えてくれる植物にとって、必要不可欠なものだ。」

which he needs for good health という形容詞節にすればよい。目的格の関係詞 which が省略されている。He needs them for good health. という英文を考える。

(4) c 「もし化石燃料を使い続けられれば、大気中の二酸化炭素濃度は上昇し、地球を覆い尽くして地球を危険な状態にまで達するところまで行ってしまいうだろう。」

It will blanket the earth and reach a dangerous level at the point. という英文から at which が答えになりそうだが選択肢にない。そのため at which を意味する関係副詞 where を選ばばよい。

具体的な場所と言えなくても、point (点) とか case (場合) などのように広い意味で場所と考えられる語が先行詞に来るときには関係副詞 where が用いられる。

【4】

A.

全訳

人間は250万年前に初めて地球に出現して以来、病気に悩まされ続けてきた。①この期間のほとんどの間、人間は人体がどのように機能するのか、また、何が病気を引き起こすのか、についてはほとんど何も知らなかった。治療は、主に迷信と当て推量に頼っていた。

有史以前には、人々は怒れる神や悪霊が病気を起こすと信じていた。②病人を治すには、神々を鎮めたり、悪霊を体内から追い払わなければならなかった。③やがてこの仕事は、最初の医者、つまり、神々を鎮め、悪霊を追い払おうとする部族内の司祭の仕事になった。

B.

解答・解説

(1) 「全訳」の下線部①参照。

(2) ① therefore

○下線部①の部分を受けて「それゆえに」と述べている部分。

② never

○後の but と相関して「決して…ないが～」

③ however

○対照的な内容を述べるので「しかしながら」が入る

④ infinitely (無限に)

(3) 「全訳」の下線部②参照。

全訳

①コンピュータは便利なものではあるが、我々の指示に忠実に従う機械以上のものでもなければ、それ以下のものでもない。それゆえ、我々が明確な指針を持っていない問題において、コンピュータが独自の判断を下せると考えるのは大きな誤りである。実際、コンピュータは命令を下すことは決してできず、提案をすることができるだけなのである。しかしながら、我々の知的活動の中で、コンピュータが我々よりはるかにうまくやれる領域がある。それは記憶である。ああ、②記憶に関しては我々は最も簡単なコンピュータにさえ及ばない。

C.

全訳

①写真を撮る習慣は、今ではすっかり大衆的なことになっているので、我々はそれがいかに最近のものであるのかということをおぼえている。②19世紀の初めには、デッサンや絵を

描く才能があつてのみ、人は自分の見た物の写しを作ることができた。19世紀の終わりになると、簡素な箱の手助いで、誰でもそれができるようになった。小さなガラス窓をのぞき込み、自分の望む絵を枠にはめ、それからシャッターを押した。あとはすべてその箱がやってくれたのである。

D.

全訳

昨年の12月、アメリカ合衆国魚類野生動物局は、自由に飛び回っているコンドルの最後の残りをかり集める計画を公表した。その前年の冬に野生の6羽が死んだからである。④1羽は、ハンターが残していった獣の死体の中にあつた鉛の弾丸を飲み込んで、鉛中毒になって死んだことがわかっている。その他はただ単に姿を消してしまつた。それらは前の1羽と同じ運命にあつたのかもしれないし、牧場主がコヨーテのためにしかけた毒入りのえさで死んだのかもしれない。⑥いなくなったコンドルは、その羽をとろうとした不法なハンターに撃たれた可能性もある。というのも、コンドルの羽はおみやげとして需要があるからである。

[5]

解答

- (1) c
- (2) a
- (3) もちろん人間は集団になつてもその実体は変わらない、ということ。
- (4) ④ individual ⑤ society
- (5) 「全訳」の下線部⑥、⑧参照。
- (6) the power [to mould the character and thought of its individual members, and to produce a certain degree of conformity and uniformity among them]

解説

- (1) one way or the other 「①どちらかに ②どっちにしても」
The question which comes first — society or the individual (社会と人間のどちらが先にくるのかという問題) に関してどちらを支持する意見を述べるにしても、ということ。
- (2) ○ an island の言い換えの部分。
 - entire 「全部そろつた；完全な」 = complete
 - of itself (= by itself) 「①(他に関係なく) それだけで；単独で ②ひとりだけで」
- (3) ○ Of course not = Of course (men are) not (, when brought together, converted into another kind of substance) と補つて考える。
 - when (they are) brought together と補つて考える。
 - converted = changed
 - substance 「①物質 ②実質；内容 ③要旨 ④富；資産」
- (4) いずれも、本文の主題である 'society or the individual' を対比させて述べられている部分である。
 - ④その話す言語は先祖から個人的に受け継いだものではなく、自らが育つ集団から社会的に習得したものである。

⑤ 社会から離れては個人は口もきけず知力もないであろう。

(5)

⑥◇ uniform *adj.* 「一様な」 *cf.* 制服 *n.*

◇ in the sense that ~ 「~という意味において」

◇ they call for, and provide opportunities for, ~ 「それらの社会は、~を要求し、また~の機会を提供する」

○ they = simpler societies

○ they

[call for]	~ [共通関係に注意]
	(and) provide opportunities for		

○ call for ~ 「~を要求する」 = demand

○ provide 「~を供給する」

○ opportunities for ~ 「~の機会」

◇ a far smaller diversity of individual skills and occupations 「個人的な技能や職業のはるかに小さい多様性」《直訳》

○ far : smaller を強調する用法。「ずっと ; はるかに」

○ diversity 「多様性」

○ occupation 「職業」

⑧◇ You can *no more* have the egg without the hen *than* you can have the hen without the egg 「あなたが鶏なしで卵を得られないのは、卵なしで鶏を得られないのと同様だ」

○ no more ~ than ... 「...でないのと同様に~ではない」

= not ~ any more than ... 《than の前後とも否定する表現》

(6) 繰り返しを避けるために用いられた指示代名詞の that。何が比較されているのかを考えて解答を導く。

全訳

社会と個人のどちらが先に来るかという問題は、にわとりと卵の問題に似ている。これを論理的問題として扱おうと歴史的問題として扱おうと、この問題について意見を述べれば、どちらにしても（社会が先であるという意見を述べても個人が先であるという意見を述べても）正反対で同様に一方的な意見によって必ず修正される。社会と個人は不可分の関係なのだ。互いを必要とし合い、互いを補い合うものであって、対立し合うものではない。ダンの有名な言葉にあるように、「誰もそれだけで完全な鳥ではない。誰もが大陸の一片、本土の一部に過ぎないのである」これは真理の一面である。一方、古典派個人主義者ジョン・スチュアート・ミルの意見「人間は集団になっても、その実体は変わらない」を考えてみよう。もちろんその通りであるが、人間は集団になる以前から存在していたとか、あるいは何らかの実体があったと考えるのは誤った見解である。我々が生まれるやいなや、世界は我々に働きかけ、我々を単なる生物学的単位から社会的単位に変えるのである。歴史上であろうと有史以前であろうと、そのあらゆる段階のすべての人間は、ある社会に生まれつき、幼少の頃からその社会によって形作られる。人間が話す言語は先祖から個人的に受け継ぐものではなく、自らが育つ集団から社会的に習得するものである。言語も環境も、思想的特徴を決定するの

に役立つ。すなわち、幼少時代の物の考え方は他人から受け継ぐものなのである。まさしく名言であるが、社会から離れては個人は口もきけないし知力もないであろう。

未開人は文明人と比べて個性に乏しく、より完全に社会によって型にはめられているというのが、人類学者の通説である。これには真理の一要素が含まれている。⑥単純な社会においては、複雑で進化した社会に比べ、必要とされる個人の技能や職業はずっと少ないし、その機会が提供されることもずっと少ないという意味で、単純な社会は複雑な社会よりも一様だと言える。この意味における個人化のさらなる進行は、近代の進歩した社会では必然的に生じる結果であり、社会のあらゆる活動に徹底的に行き渡っている現象である。しかし、この個人化の過程と、ますます強まる社会の力とまとまりを正反対のものだとするのは、重大な誤りであろう。社会の成長と個人の成長は相伴うものであり、互いを左右し合うものである。実際、複雑で進んだ社会と言う時に我々が意味するのは、個人の相互依存が複雑で進んだ形を呈するようになった社会のことである。個々の成員の性格と思想を形作り、彼らの間にある程度の相似性と一様性を生み出す現代国家社会の力が、未開の部族社会のそれよりもいささかでも小さいと考えるのは、危険なことであろう。

文明人は未開人と同じく、社会が個人によって形作られるのとまったく同じくらい効果的に、社会によって形作られる。⑧卵がなければにわとりが存在しないのと同じく、にわとりがいなければ卵は存在しないのである。

注

ℓ. 1 ◇ The question which comes first 「どちらが先に来るかという問題」

○ 文の主部になる。

○ which の内容は直後の society or the individual によって説明されている。

ℓ. 2 ◇ hen 「めんどり」 cf. ⇔ cock ; rooster 「おんどり」

◇ Whether you treat it

as a logical
(or) as a historical

 question

「それ（社会が先か個人が先かという問題）を論理的問題として扱おうと歴史的問題として扱おうと」

○ whether A or B 「AであろうとBであろうと」《譲歩》

○ treat A as B 「AをBとして扱う」

○ logical 「論理的な」

◇ you can make no statement about it < 挿入 > which does not have to be corrected by ~ 「それについて、~によって修正されなくてもいい意見を述べることはできない → それについて意見を述べれば、必ず~に修正される」

○ 二重否定表現。

○ which は statement を先行詞とする関係代名詞。

ℓ. 4 ◇ opposite *n.* 「正反対のもの；事」 *adj.* 正反対の

ℓ. 5 ◇ inseparable 「切り離すことのできない」

◇ they are necessary and complementary to each other 「それら（社会と個人）は互いに必要でありまた互いに補足的である」

- Society and the individual are inseparable の言い換え。
- complementary to ~ 「~にとって補足的な」
- (they [society and the individual] are) not opposites と補って考える。
- ℓ. 6 ◇ Donne : John Donne (英国の宗教家；詩人)
 - ◇ every man is a piece of the continent, a part of the main 「誰もが大陸の一片，本土の一部に過ぎない」
 - continent 「大陸」
 - main 「本土」
- ℓ. 7 ◇ take the statement of ~ : 「例などとして挙げる」の意の take。
- ℓ. 8 ◇ J.S. Mill : John Stuart Mill 「英国の哲学者；経済学者」
 - ◇ individualist 「個人主義者」
 - ◇ when (they are) brought together と補って考える。
- ℓ. 9 ◇ convert A into B 「AをBに変える」
 - ◇ the false notion (C) is (V) to suppose that ~ (S) 「~と考えることは誤った概念である」
 - 補語が文頭に出た倒置形。
 - to suppose : 主部になる名詞用法の不定詞。
 - that … は suppose の目的語になる名詞節。
 - they existed : they = men
- ℓ. 11 ◇ as soon as ~ 「~するやいなや」
 - ◇ get to do 「…するようになる」
 - ◇ work on ~ 「~に働きかける；作用する」
 - ◇ transforms us from merely biological (units) into social units 「我々を単なる生物学的単位から社会的単位に変える」
 - transform A (from B) into C 「Aを(Bから)Cに変える」
 - biological 「生物学的な」 < biology
- ℓ. 13 ◇ and from its earliest years (every human being) is moulded by that society と補って考える。
 - mould (= mold 《米》) 「~を形成する」
- ℓ. 14 ◇ not A but B 「AではなくB」
 - ◇ inheritance 「相続；受け継いだもの」 < inherit *v.*
 - ◇ acquisition 「獲得；修得」 < acquire *v.*
 - ◇ the group in which he grows up 「彼がその中で成長する集団」
< he grows up *in* the group
- ℓ. 16 ◇ As has been well said, ~ 「上手く言われてきたことだが，~」
 - as は関係代名詞で，後続する節の内容を受ける。《後方照応的用法》
- ℓ. 17 ◇ apart from ~ 「①~から離れて ②~は別として」
 - ◇ would : 主部 the individual apart from (⑤) に含まれる条件を受けて仮定法過去になっている。

- ℓ. 18 ◇ It is commonly said by anthropologists that ~ 「～ということが人類学者に一般に言われている」
- It は that ~ を受ける形式主語。
 - ◇ primitive 「原始的な；未開の」
- ℓ. 19 ◇ contain 「～を含む」
- ◇ element 「要素」
- ℓ. 22 ◇ individualization 「個人化」
- ℓ. 23 ◇ run through ~ 「～に行き渡る」
- 主語は Increasing individualization in this sense
 - ◇ from top to bottom 「上から下まで；徹底的に」
- ℓ. 24 ◇ it would be a serious error to set up an antithesis between ~ and … 「～と…の間に対立関係を設けるのは愚かな過ちであろう」《直訳》
- it は to … を受ける形式主語
 - would : to … に含まれた条件を受けた仮定法過去。
 - set up ~ 「～を設ける」
- ℓ. 26 ◇ go hand in hand 「①協力して ②相伴って」
- ◇ condition *v.* 「①～を調整する ②～を決定；左右する ③（けなして）～を慣らす；条件づける」
- ℓ. 27 ◇ what we mean by a complex or advanced society 「複雑化した進んだ社会によって我々が意味するもの」
- < mean A by B 「BによってAを意味する」
 - ◇ a society in which the interdependence of individuals on one another has assumed advanced and complex forms 「個人の相互依存が、進んだ複雑な形を呈してきたような社会」
 - 前置詞 + 関係代名詞 < … in a society
 - one another 「互い（に）」
 - assume 「①～を想定する；～だと思い込む ②～を引き受ける ③～を帯びる」
- ℓ. 29 ◇ It would be dangerous to assume that ~ 「～だと思い込むのは危険であろう」
- It は to ~ を受ける形式主語。
 - この assume は前述の①の意。
 - that 節は assume の目的語で文末まで続く。
 - ◇ the power of a modern national community
 - ┌ to mould the character and thought of its individual members
 - ├ (and) to produce a certain degree of conformity and uniformity among
 - └ them

「個々の成員の性格と思想を形作り，彼らの間にある程度の相似性と一様性を生み出す現代国家社会の力」
 - この部分全体が that 節内の主語。
 - power は2つの形容詞用法の不定詞句によって修飾されている。

- power to *do* 「…する力」
- a certain degree of ~ 「ある程度の～」
- conformity 「相似性」
- uniformity 「一様性」

ℓ. 31 ◇ tribal 「部族の」

ℓ. 33 ◇ Civilized man, like primitive man, is moulded by society just as effectively as society is moulded by him 「文明人は未開人と同じく、社会が個人によって形作られるのとまったく同じくらい効果的に、社会によって形作られる」

- just as ~ as … 「…とちょうど同じくらい～」

【6】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) c
- (3) b
- (4) 「全訳」の下線部③参照。
- (5) hand moved [did]
- (6) a
- (7) 毎晩、壁の中の死番虫の立てる音に耳を傾けていたということ。

解説

- (1) It took me an hour to place ~ = I took an hour to place ~ は時間構文。so far that … の far は「程度」を表す。

the old man as he lay upon his bed の as は「直前の名詞を限定する用法」で「～するような；～するところの」の意味。「ベッドで眠っていた老人」となる。

Ex. Keiko told me a lot about Kyoto as she knew it ten years ago.

(ケイコは私に10年前に見た京都のことをあれこれ話してくれた。)

lay は lie の過去形 (lie - lay - lain - lying)。

- (2) well は形容詞ではなく、into the room を修飾する副詞で「ずいぶん；優に」の意味。

Ex. She is well over fifty. (彼女は優に50歳を超えている。)

a 「ご存じのように、父はピアノがとても上手で、母は歌がうまい。」 well は副詞で「うまく；上手に」の意味。

b 「100人の賢者でも引き上げられないような石を、1人の愚か者は井戸の中へ放り込む〔愚か者は、自分の言っていることすら理解できないから神様でも答えられないような難問でさえも平気である〕。」 well は名詞で「井戸」の意。

c 「アンソニーはとっくに退職年齢を過ぎていたのに、働けなくなるまで働くと言って聞かなかった。」 well は時や場所の副詞(句)の前で「ずいぶん；かなり；優に」の意味。

d 「近頃エレンを見ていない。」「エレン？ 昨日会った時は元気そうだったよ。」 well は形容詞で「元気な」の意味。

- (3) It was not the old man (but his Evil Eye) that vexed me. という強調構文となる。
 (4) would have beenが仮定法であることに気がつけば, to suspect ~がその条件部になっていることも分かるはず。

Ex. You would take him for an American to hear him speak English.

(もし彼が英語を話すのを聞けば, 彼を米国人だと思うだろう。)

- (5) 主語が A watch's minute hand だからと言って, (minute) (hand) としてはならない。内容を考えても「私の手 (my hand) の動き」と比べているのであって、「私の長針 (minute hand)」と比べるというのは意味不明である。
 (6) was about to do, when S V. 「～しようとした, とその時 S V」
 (7) just as I have done は挿入節になっているため, 直後の night after night, listening to the death watches in the wall を訳せば良い。

全訳

①扉のすきまに、ベッドで眠っていた老人の姿が見えるくらいまで自分の頭全体を入れるのに一時間もかかりました。どうです！ 狂人だったらこんな賢くはできなかったでしょう。そして、頭が十分に部屋の中に入った時、手提げランプの覆いを用心深く外したのです。それはとても慎重に、慎重に外しました（ランプのヒンジが軋むものですから）。私は細い一筋の光線があつたハゲワシのような目の上に降り注ぐように手提げランプの覆いを開けたのです。こんな事を7日間も続けて、それも毎晩ちょうど深夜の12時に行いました。しかしその目はいつも閉じていたのです。だから事を行うことは不可能でした。というのは、私を苦しめていたのは老人ではなく、あの忌々しい目だったわけですから。そして毎朝、夜が明けると、大胆にも老人の寝室へ入っていき、勇敢にも彼に話しかけ、心のこもった口調で老人の名を呼び、昨晩はよく眠れたかを聞いてみたのです。③毎晩ちょうど12時に、眠っている間、私がおその老人の寝姿を覗いていると疑っていたならば、かなり勘の鋭い老人ということになったというのがお分かりでしょう。

8日目の晩、いつも以上に慎重に扉を開けました。その時の私の手の動きに比べたら、時計の長針のほうがもっと速く動くでしょう。この晩ほど、自分の力の見事さ、自分の判断力の見事さを実感したことはありません。勝ち誇った感情を抑えきることができないくらいでした。私が老人の寝室にいて扉を少しずつ開けているのに、その老人は私の密かな行いも私の考えも夢にさえ思っていなかったのです。その考えに一人でかなりほくそ笑んでいました。しかしおそらく私の笑い声が聞こえたのでしょう。老人は突然びっくりしたようにベッドの上で急に動いたのです。そこで私は引き下がったと思うかもしれませんが、それは違います。老人の寝室は深い闇の中で真っ暗でした(盗人に入られることを心配して、窓にはシャッターがしっかりと閉じていましたから)。だから、老人は扉のすきまを見ることは出来ないことは分かっていました。そしてゆっくり着実に扉を押し続けたのです。

私が頭だけ中に入れて、今にもランプの覆いを外そうとした時、ブリキの留め金の上で親指がすべってしまいました。老人はベッドで起きあがって「そこにいるのは誰だ？」と怒鳴りました。

私は完全にじっとして声も出ませんでした。まるまる一時間の間、筋肉ひとつ動かさずでしたが、その間に老人がまた横になる音も聞こえてきませんでした。老人は耳をすま

して、ベッドでずっと身体を起こしていたのです。ちょうど私が、毎晩、壁の中の死番虫の立てる音に耳を傾けていたのと同じように。

【7】

ポイント

形容詞節は形容詞句として書き換えられる場合も多く、入試でもしばしば出題されている。ここではその書き換えを演習してみる。

解答・解説

- (1) he can 「ベンには頼ることができる友人がたくさんいる。」
to 不定詞の形容詞用法を、形容詞節（関係節）に変換する。
- (2) painted by, my own 「それは私（自身）が描いた絵だ。」
形容詞節を、過去分詞の形容詞用法および of one's own …ing（自分で…したところの）という形容詞句で書き換える。
- (3) whose, is, with, covered with 「てっぺんが雪に覆われている山がモンブランだ。」
形容詞節（関係節）を 'with + O + C'（OをCの状態にして）という‘付帯状況’の with を用いた形容詞句で書き換える。

【8】

ポイント

例えば、先行詞の後に形容詞節が続いた場合に、元の主語と動詞との連関が希薄になりがちである。形容詞節がどこからどこまで続いていて、全体としてはどのような構造の英文が出来ているのかを確認してみよう。

解答・解説

- (1) were → was
「彼らが探していた子供は劇場で見つかった。」
あくまでも主語は The child であるから、動詞は was にする。
- (2) to fast → fast
「トムがノックしたドアは、しっかりと鍵がかかっているようだった。」
 - be locked fast 「しっかりと鍵のかかった」
 - knock at [on] the door 「ノックする」
- (3) was → were
「彼らは両岸共に樹木で覆われている川にやって来た。」
主語は the banks。これを主語にした英文を考えると、The banks of the river were covered with trees. という英文が出来る。
- (4) about which → which
「ナイチンゲールがこの時期に書いた看護に関する小冊子はいまだに読んで面白い。」
wrote の目的語は the little book のはずである。これらを動詞・目的語とする英文を考えると、Nightingale wrote the little book on nursing. という英文が出来る。on は‘専門性の on’とも言われる。例えば、a book on law だと「法律の専門書」を、a book about

law だと「法律の一般書」を思い浮かべられる。

(5) which is spoken → where [in which] it is spoken

「外国語をマスターする最善の方法はその言葉が話されている国に住むことだ。」

話されているのは国ではなく言語のはず。つまり, speak の目的語 (= 受動態の主語) が「言葉」になるように書き換える。

【9】

ポイント

一般に形容詞は1語では前から（前置修飾）、修飾語を伴う場合には後ろから（後置修飾）修飾すると言われる。ここでは、例外も含めて確認していく。また、ハイフンをつないで1つの形容詞を作ることが出来る場合があることも確認しておこう。

解答・解説

(1) Let sleeping dogs lie.

「寝ている犬は起こすな（寝た子を起こすな）。」《ことわざ》

○ sleeping dogs 「寝ている犬」。

(2) There are thirteen vitamins useful to (the human body.)

「人間の身体に有益なビタミンは13ある。」

○ useful to 以下が vitamins を後置修飾した形。

(3) (Half of the students) surveyed answered that they could change (their bad habits.) 「調査された学生の半数が、悪い習慣を変えられると答えた。」

○ surveyed が（1語であるが）後置修飾をしていることに注意。

cf. Tom was among the five persons arrested.

（トムは逮捕された5人の中の人だった。）

(4) (It is said that) very few children need surgery to correct (flat feet.)

「扁平足を治す手術が必要な子供はほとんどいないと言われている。」

○ very few ~ 「ほとんどいない」

(5) (We) could solve the problem by a trial-and-error approach.

「手探りの方法でその問題を解決できるかもしれません。」

○ 語句をハイフンをつないで形容詞にすることができる。

Ex. He is a three-year-old boy. (彼は3歳の男の子だ。)

3章

問題

【1】

A.

解答

- (1) **a** but **b** as well as **c** not, as well
- (2) **b** Every [Each] time
- (3) **b** unless

解説

- (1) 「～ばかりでなく…も」の表し方には,
 - a** not only [just ; merely ; simply ; alone] ~ but (also) …
 - b** … as well as ~
 - c** not merely ~ but … as well [too]などがあるが, not only ~ but (also) … が not ~ but … (～でなくて…) の形だとわかっていれば, only 以外にも just, merely, simply, alone などでも使えることがわかるはず。
- (2) 「S'がV'する度に, SはVする」の表し方には,
 - Every [Each] time S' + V', S + V.
 - Whenever S' + V', S + Vなどがある。また, この文は She *never* coughed *without* feeling a good deal of pain. のように書き換えることもできる。
- (3) 「～である。ただし, …の場合だけは(例外的に)～でない」という論理構造を表すのに, 英語では '～ unless …' という形を用いる。なお, **b** の that 節の would, worked は仮定法ではなく, she *will* fail the exam unless she *works* hard の will, works が時制の一致を受けたもの。

B.

ポイント

接続詞 that はさまざまな意味で用いられる。それぞれの英文中で使用される that の用法を考えながら解いていくこと。

解答・解説

- (1) **d** 「私が直接出席できるようにこの会議の日程を変更してくれませんか。」
so that S may ~ (Sが～するために) の so が省略されたもの。
- (2) **a** 「その申し出を拒否したいということを明らかにせねばならない。」
 - make it clear that S V 「S Vを明らかにする」
 - it は形式目的語で that 節が実質目的語となる。
 - b** や **e** も入りそうであるが, 他の小問を合わせて考えると, **a** が正解になる。
- (3) **e** 「月がとても明るかったので懐中電灯を使わなくても彼の顔が見えた。」

so ~ that …構文。

- (4) b 「あの衝撃的な事件が昨年起きたのは、私達が今立っている場所だった。」

It was ~ that …の強調構文で、It was と that に挟まれた語句が強調される。

- (5) c 「よいカウンセラーを探す際には注意することが必要だ。」

that you be careful ~は仮定法現在。つまり、‘必要・重要’の形容詞や‘提案・要求’の動詞の後に続くものと考え。

【2】

ポイント

接続詞と言っても、等位接続詞と従位接続詞、順接や逆接、時や条件を表す接続詞など多種多様なものを学習してきたと思うが、ここでは、それらの知識を簡単に見直しておきたい。

解答・解説

- (1) if 「明日の朝彼は家にいるかどうか聞いてください。」

if (whether) S V で「S Vかどうかということ」という名詞節をつくる。「もし~なら」という意味ではない（これは副詞節の場合である）。

- (2) that [because] 「彼の成功の理由は、あらゆる努力をしたということだ。」

本来、‘理由 (reason)’が主語である以上、論理的に考えて (S = C とすると) 補語に because 節が来るのはおかしいとされていたが、最近では because 節を許容する傾向が強い。

- (3) Suppose 「もしあなたが10億円持っていたら、それで何をするつもりですか。」

If S V = Suppose S V = Supposing S V = Providing S V = Provided S V とされるが、仮定法の条件節としても使われるのは If S V と Suppose S V と Supposing S V のみ。また、Provide S V や Supposed S V という形は存在しないので注意。

- (4) before 「冷めないうちに食べてくださいよ。」

before S V は「SがVする前に」という意味から転じて「SがVしないうちに」と訳せる場合があるので注意。

- (5) that 「その女優が結婚したという知らせは本当のはずがない。」

○ the news that S V 「S Vという知らせ」

この that は同格の接続詞。The actress got married. が完全な文になっていることにも注意。

- (6) before 「彼はまもなく日本に来るでしょう。」

○ It will not be long before S V 「まもなく S V」

before S V の部分は「時・条件を表す副詞節」であるから現在時制になることに注意。

- (7) so that 「その傷がちゃんと癒えるように治療を続けなければなりません。」

文意を考えて、so that S may [can ; will] ~ (SがVするために、SがVするように) という目的の副詞節にする。

- (8) that 「彼女はたまたま家にいなかった。」

○ It (so) happens that SV. 「たまたまSがVのようなことが起こる。」

- (9) and 「彼女は皿を洗ってそれを乾かしました。」

dried them の them が指しているものを考えると the dishes しかない。つまり dried の主語は She と考えるべきである。

(10) but 「確かに彼は格好よいが、心優しいとは思いません。」

○ It is true ~, but … 「確かに～だがしかし…」

【3】

ポイント

等位接続詞は何と何をつなげているのかを常に考える態度が必要である。また、接続詞として転用される語句については出来る限り覚えてしまうこと。

解答・解説

(1) c 「母とは、最初の教師であり、また最も重要な教師であり続ける。」

等位接続詞の and が何と何を接続しているかを考える。is と remains をつなげている。remind は「～を思い出させる」という意味で不適。

○ remain C 「Cのままである」

(2) d 「もしミュンヘンでの乗り継ぎを厭わなければ今日の午後にウイーンに着くことができる。」

○ provided S V = if S V (【2】(3)の解説参照。)

○ as far as S V 「SがVする限り」《範囲を限定》

○ unless S V 「SがVでない限り」

○ A as well as B 「B同様にAも」

(3) d 「車を走らせようとした途端、エンジンがどこかおかしいことが分かった。」

○ the moment S V = as soon as S V 「SがVするや否や」

although や even if は文法的には入るが、意味から考えて「最も適当」ではない。however (しかしながら) は接続副詞と呼ばれ、単独で文をつなげることは出来ない。

(4) b 「ジューンはかなり不正直だ。それゆえ、彼女の言うことには気をつけたほうがよい。」

意味を考えると順接でつなげるべきであるから therefore (それゆえ) を入れる。なお、本問の選択肢 (however や meanwhile など) はいずれも厳密には接続詞ではない (接続副詞と言われる)。この英文で接続詞の働きをしているのは ; (semicolon) である。

○ meanwhile 「その間に；他方では」

○ moreover 「さらに；その上」

(5) d 「知っての通り、自分の面倒を見られない限り、他の誰かの面倒を見られるはずはない。」

文章の意味を考えると unless 以外はおかしい。

○ unless S V 「SがVしない限り」

(6) a 「『合理的な』や『驚かせるような』などの大半の形容詞は、それが修飾する名詞の性質や特徴という観点で段階づけられるが、他方、『死んだ』とか『完全な』といういくつかの形容詞は、そういう段階づけはできない。」

while (しかしながら；他方で) という接続詞に着目して解く。while の前後で対照的な事柄が述べられていることに気がつけばよい。なお、absolutely は副詞のため、この空

所には入らない。

- (7) c 「あなたがた皆に加われたら大変嬉しいのですが、ただ時間が無いのです。」

単に that では意味が通らない。only には接続詞の用法があり、only (that) S V で「ただ (しかしながら), S V」という意味になるのは入試では盲点の1つ。

- (8) d 「今やインターネットが必要不可欠なインフラとして機能しているので、ウェブのスペシャリストは、かつてないほど多くのことができる。」

○ now (that) S V 「今やSはVなので、SがVする現在では」

なお、Once (that) S V (いったんSがVすれば) も入らないわけではないが、now に比べると、最も適当な選択肢とは言いがたい。

- (9) c 「消費者が主にデザインで製品を選ぶ限り、よりよいデザインを求めた競争が続いていくだろう。」

as long as S V も as far as S V も「SがVする限り」と訳せるが、前者は‘条件 (SがVならば)’を表すのに対して、後者は「SがVする範囲内で」の意味になる。

cf. As far as the eye can see, there is nothing but snow.

(見渡す限り雪しかない。)

- (10) d 「彼の能力が大変向上したので、どんなに困難であっても、彼自身で平易でスムーズにならないものはなくなっていた。」

so ~ that …構文の so greatly が文頭に出た形であることに気がつけばよい。

○ render O C 「OをCの状態にする」

- (11) d 「彼は7月に脳梗塞のうこうそくを患って以来、リハビリを受けてきている。」

○ since S V 「①SがVして以来 ②SはVなので」

○ in case S V 「①もしSがVなら (= if S V) ②SがVするといけないので」

○ for fear (that) S V 「SがVするといけないので」

○ undergo 「～を経験する」

○ rehabilitation 「リハビリ」

○ stroke 「脳梗塞；脳卒中」

- (12) b 「需要が高まるにしたがって、物価も上昇するだろう。」

according to + 名詞 (～によると, ～にしたがって) はよく知られているが、according as S V (SがVするにしたがって) という形も覚えておく。

- (13) d 「彼は刑務所から逃亡するや否や、再び逮捕された。」

(= As soon as he escaped from the prison, he was arrested again.)

これまでに何回も出てきた形である。

○ scarcely [hardly] ~ when [before] … 「～するや否や…」

- (14) c 「オリーブはジェイコブに涙を見られないように顔を背けた。」

○ lest (for fear) S should ~ 「Sが～するといけないので、Sが～しないように」

○ so that S V 「《目的》SがVするために 《結果》そのためSがVする」

○ whether S V 「《名詞節》SがVするかどうかということ 《副詞節》SがVであろうとなかろうと」

- (15) c 「知ってる？ デイビッドは運転できないのに赤いスポーツカーを買ったんだって。」

even if S V と even though S V は異なる。even if は条件を強めて「仮に～だとしても」の意味だが、even though は譲歩を強めて「実際には～だけれども」という意味になる。本問では「実際に運転が出来ない」ことを強めているから後者を選ぶべき。

【4】

A.

全訳

第三世界としばしば呼ばれている貧しい国々が、適切な食料や住宅や医療の不足に苦しんでいる一方で、豊かな国々にも問題はあつた。豊かな国々は必ずしも住むのに大変快適な場所であるというわけではない。しばしばそれらの国々を豊かにしているものが、同時にそれらの国々を不快にする原因ともなつていふのである。つまりそれらの国々を豊かにしている製品が、大気や水を汚染してもいふのである。ほとんどの人々はある程度の汚染は必然的で不可避なものと感じていふので、これに我慢していふ。環境を汚染しないように、工場がその廃棄物を処理するよう要求していふ人もいふ。

B.

全訳

日本に15分もいれば、自分が非常に礼儀正しい人々の中にいふことを確信するだろう。絶望的なほど混雑しすぎた島に住んでいふ人々は、互いの私生活を尊重しなければならぬ——というよりは、日本人に少しでも私生活があつたら、そうしなければならぬだろうと言つた方がよいだろう。

C.

全訳

確かに第1次世界大戦のために女性が商工業に進出してきつた。速記者、タイピスト、工場労働者、バスの車掌として、女性は社会でかなり新しい役割を果たし始め、引き返すことは不可能であつた。なぜなら雇い主たちに大勢の安い労働力を提供したからである。今では女性は男性と同じくらい国の経済生活に貢献していふ。

D.

解答・解説

- (1) **f** than が直後にあつることから、**f** less unusual, **h** rather, **i** stronger, **j** more unusual のうちから、文脈にふさわしいものを選ぶ。
less unusual は一種の二重否定で「変わったことではない」→「普通のことである」
- (2) **c** to 不定詞の意味上の主語を表す (for ~ to 不定詞が真主語で、文頭の It は形式主語であつことに注意)。
- (3) **g** tens of thousands of ~ 「何万という～」
- (4) **n** take advantage of ~ to … 「～を利用して…する」
- (5) **i** (1) と同様に than が後に続くものの中から文脈に合うものを選ぶ。
- (6) **o** in spite of ~ 「～にもかかわらず」 = despite 「国籍の違いにもかかわらず」
- (7) **a** be worthy of ~ 「～に値する」
- (8) **m** on account of ~ 「～のために」《理由》 = because of ~

- (9) **b** as a whole 「全体として；概して」
 (10) **k** tend to *do* 「…する傾向がある」
 (11) **h** A rather than B 「BよりもむしろA」

A = the ways in which foreigners and Japanese differ

B = the possibilities of enriching one's life with friends from abroad

全訳

日本人が親しい外国人の友人を持つことは、20～30年前に比べればずっと珍しいことではなくなっている。何万人もの日本人が海外留学をしてきたし、また好機を利用して日本あるいは別の場所です会った人々と友人になってきた人々もいる。場合によってはこういう友情が、日本で子供の頃や学校時代に育んだ友情よりも強いこともある。そして国籍の違いにも関わらず、これらの友人は愛情や寛大な気持ちや尊敬に値するとさえ感じる日本人もいるだろう。しかしながら、たいていの日本人はそのような友情を決して育むことはない。彼らはその違いのために外国人と友達になろうとすることさえ無駄であると確信しているようである。そして概して日本社会は、外国からの友人を持つことによって人生を豊かにする可能性よりもむしろ、日本人と外国人との違いを強調する傾向がある。

[5]

ポイント

長文読解において、1文1文を解釈していくことだけでなく、前後の流れを汲みとることも大切だということは言うまでもない。本問では特に後者に焦点を当てて問題を作成した。

解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
 (2) **a**
 (3) 「全訳」の下線部③参照。
 (4) Racism (人種差別)
 (5) **b**
 (6) 黒人で世界チャンピオンとなったジョンソンを倒すことができる白人ボクサーのこと。(39字)
 (7) **d**
 (8) 1954年にボクシングの殿堂が設立された時、ジョンソンは人種の壁を超えて殿堂入りを果たしたが、次の黒人ボクサーがチャンピオンを争う機会が与えられるまで25年もかかったことから、当時の米国社会はまだ黒人の地位を認める段階にはなかったということ。(118字)

解説

- (1) to the fullest は「最大限に；精一杯」という意味の表現であるが、前後の内容からも、「史上最高のヘビー級ボクサー」であり「ジャズ・バンドでベースを演奏」し、「シカゴにナイトクラブを所有」し、「オペラや、シェイクスピアの『オセロ』を演じ」た彼の人生を読み取ればよい。
 (2) 「ジョンソンは、偉大なアスリートであり、何百万人ものファンがいたにもかかわらず」

- という逆接に続く箇所、勝利の後に、「黒人が白人を負かしたという理由で合衆国全土で死者が出る暴動が起きた」と続くことから、ジョンソンは『嫌われて』いたことになる。
- (3) keep to Aは「Aを外れない」という意味であるが、これも下線部より前の内容を考えて、「異人種間の試合は好まれなかった」ことから「黒人ボクサーは自分たちの集団内に収まっている必要があった」ことを読み取る。

e.g. keep to the right (右側を通行する)

- (4) 第1段落では黒人であるジョンソンが白人ボクサーに勝つと暴動が起こったことが、第2段落では異人種間の対戦が人気がない中でジョンソンが黒人初の世界チャンピオンになったことが書かれている。また、空所④に続く箇所では黒人のチャンピオンが白人に受け入れ難かったことが記されている。つまり、当時の状況は「人種差別が強い」ものだったとわかる。
- (5) 「ジョンソンを打ち負かせるボクサーがいなかったため、彼を打ち負かす他の手段を見つけた」とあることから、ボクシングのリング「外」の私生活について彼を攻撃した、と読み取ればよい。withoutでは「ボクシング(のリング)なしの生活」となってしまう、ジョンソンがボクシングから既に引退したような意味になってしまう。
- (6) “the great white hope”については第3段落に説明がある。It referred to any white boxer who could defeat Jack Johnson. を読み取ればよい。
- (7) ジョンソンは67歳までボクシング「を」続けたのである。～ and he continued it (= boxing) to the age of sixty-seven. と考えれば関係代名詞のwhichが正解とわかる。
- (8) 「ジョンソンが色の壁(=人種差別の壁)を打ち破ったものの、アメリカ自体はまだその準備(=人種の壁を打ち破る準備)が出来ていなかった」ということであるが、この理由はこの段落の前半に書いてあるため、当該段落全体の趣旨をまとめる形で答案化すればよい。

全訳

多くの人が、ジャック・ジョンソンは史上最高のヘビー級ボクサーであったという。ボクサーとしての48年のキャリアの間、彼は112試合を戦い、8試合しか負けなかった。①ジャック・ジョンソンは人生を目いっぱい生きた。自身のジャズ・バンドでベースを演奏し、シカゴにナイトクラブを所有し、オペラや、シェイクスピアの『オセロ』を演じた。だがジョンソンは、偉大なアスリートであり、何百万人ものファンがいたにもかかわらず、生前、アメリカで最も嫌われている男の一人でもあった。ある試合で彼が勝利した後、合衆国全土で起きた暴動で19人が死亡した。この暴力の原因となったのは、ジャック・ジョンソンが黒人であり、彼の対戦相手が白人であったことだった。

ジャック・ジョンソンは1878年、元奴隷の息子として、テキサスに生まれた。人生の早いうちに、ジャックは、努力して出世しようと決意した。最初の試合は1897年だった。その後の6年間、彼は黒人のボクサーとだけ対戦した。異人種間の試合は好まれなかったからである。③黒人のボクサーたちは、自分たちの仲間内から出ないようにしていなければならなかった。1903年、ジョンソンは、「ニグロ」ヘビー級のタイトルを勝ち取った。ジョンソンは、おもにトップクラスの黒人ボクサーたちと戦ったが、可能な時には、白人のボクサーとも対戦した。1908年、ジョンソンは、オーストラリアのトミー・バーンズからヘビー級

の世界チャンピオンの座を奪い、黒人初の世界チャンピオンとなった。

その後、一つのキャッチフレーズが生まれた。「偉大なる白人の希望」というものだ。それは、誰であれ、ジャック・ジョンソンを倒せそうな、白人のボクサーのことを指していた。当時アメリカでは、人種差別が非常に激しかったので、黒人の世界チャンピオンという考えは、多くの白人のアメリカ人には受け入れ難かったのである。かつてのチャンピオン、ジム・ジェフリーズは、白色人種のためにチャンピオンの座を取り戻すべく、1910年に復帰した。ジャックは15ラウンドで彼をノックアウトした。ジョンソンの勝利の後、アメリカ中で人種暴動が起き、その結果、19人が死亡したのである。

ジャック・ジョンソンを打ち負かせるボクサーは見つからなかったが、彼を打ち負かす別な方法が見つけられた。リング外での彼の生活は、彼の試合での技術と同じように、多くの白人を苛立たせていた。彼は、黒人だけでなく、白人の女性にも非常に人気があった。ジョンソンは、ある女性を不道德な目的のために州外に連れ出したとして逮捕された。その女性は、彼がのちに結婚した白人の女性だった。1913年5月13日、彼に1年と1日の服役が言い渡された。

ジョンソンは、黒人の野球チームの一員になりすましてカナダに逃れ、それからヨーロッパに移った。ジョンソンはヨーロッパで幸せに暮らし、そこでも注目を集め続けた。彼はボクシングを続けただけでなく、時間を見つけて舞台に出演したりレスリングの試合や闘牛に参加したりした。

アメリカは、ついに「偉大なる白人の希望」を見つけた。カンザスの農家出身で、ジェス・ウィラードという名の巨大な少年である。ウィラードは1915年、キューバはハバナでの有名な試合で、ジョンソンをノックアウトした。ジョンソンは1920年、合衆国に戻った。彼は即座に逮捕され、刑務所へ送られた。釈放されてから、彼はボクシングに復帰し、67歳になるまで続けた。彼は1946年、68歳で、事故により亡くなった。彼が愛して止まなかった、スピードの出る車のうちの1台を運転していた時だった。

ジャック・ジョンソンは、ボクシング界とアメリカ社会の双方に多大な影響を与えた。1954年にボクシングの殿堂が設立された時、ジョンソンは最初に認定されたボクサーとなった。次に黒人のボクサーがチャンピオンの座を狙う機会を許されるまでには、さらに25年かかった。ジャック・ジョンソンは肌の色の障壁を突き破ったが、アメリカはそれを受け入れる準備ができていなかったのである。

注

- ℓ. 1 ◇ of all time 「史上」 all-time は形容詞で「空前の；史上最高」の意。
- ℓ. 2 ◇ match 「試合」
- ℓ. 3 ◇ to the full(est) 「十分に；心ゆくまで」
○ここでは最上級なので、さらにその意味が強まっている。
◇ own 「～を所有する」
○形容詞の場合は、所有格の後に来て、「自分自身の」（直前の his own jazz band 参照）。
ちなみに自動詞の場合は、「自白する；認める」という意味になるので注意。
e.g. own to be guilty （有罪を認める）
- ℓ. 4 ◇ Shakespeare's *Othello* : シェイクスピア作の戯曲『オセロ』。主人公のオセロは、

肌の色の黒いムーア人である。

- ℓ. 6 ◇ break out 「(火事・戦争・暴動・病気などが) 突発する」
- ℓ. 7 ◇ across ～ 「～を横断して」 ⇒ 「～の全域で；～のいたる所に」
◇ the reason for ～ 「～の理由」
- ℓ. 10 ◇ fight one's way 「戦いながら前進する；奮闘して進む」
- ℓ. 12 ◇ keep to ～ 「～(進路・場所など) から離れないでいる」
- ℓ. 16 ◇ arise 「現れる；起こる」
○ arise は不規則動詞で, arise - arose - arisen
- ℓ. 17 ◇ defeat 「～を打ち負かす；打倒する」
◇ idea 「考え」
○ 日本語のアイデア(発想；思い付き) より広い意味で使われるので注意。
- ℓ. 19 ◇ come out of retirement 「復帰する」
○ out of は from と同じ意味。retirement 「引退」
◇ reclaim 「～の返還を要求する；～を取り戻す」
- ℓ. 21 ◇ result in ～ 「結果として～となる」
○ 本文のように分詞構文での用例はよく見られる。
- ℓ. 23 ◇ bother 「～を悩ます〔うるさがらせる〕」
◇ as much as ～ 「～と同じくらい」
- ℓ. 24 ◇ popular 「(大衆に) 人気がある；もてる」(with / among)
◇ as well as ～ 「～と同様に」
◇ be arrested for ～ 「～のかどで逮捕される」
- ℓ. 25 ◇ immoral 「不道德な」
○ moral に否定を表す接頭辞 im- がついた形。
- ℓ. 26 ◇ be sentenced to ～ 「～を申し渡された；～の判決を下された」
- ℓ. 27 ◇ disguise as ～ 「～に見せかける；変装する」
- ℓ. 29 ◇ box 「ボクシングをする；なぐる」
○ 「箱」の意味だけでなく「なぐり合う」という動詞もある。
◇ take part in ～ 「～に参加する」
- ℓ. 30 ◇ bull fight 「闘牛」
- ℓ. 34 ◇ release 「～を解放する；自由にする」
◇ to the age of ～ 「～歳まで」
- ℓ. 35 ◇ die in ～ 「～(事故など) で死ぬ」
○ 病気, 老齢, 飢えなど, 死亡率の高い場合は概して die of ～, 外傷などが原因のときは die from ～が使われることが多い。
◇ at the age of ～ 「～歳で」
- ℓ. 37 ◇ impact 「影響；衝撃」
○ influence より「衝撃」の意味合いが強い。
- ℓ. 38 ◇ found 「設立する」
○ find の過去形と同型だが, この動詞の過去形・完了形は founded。

ℓ. 39 ◇ another twenty-five years 「さらに 25 年」

○ twenty-five years をひとまとまりの期間としてみなして another をつける。

◇ shot 「試み」 (= attempt)

e.g. at the first shot 「最初の試みで」

【6】

解答

- (1) c
- (2) c
- (3) since
- (4) but
- (5) 「全訳」の下線部②, ③参照。
- (6) as a watch makes when enveloped

解説

- (1) bosom [bʊzəm]
 - a bomber [bɔ:mər] b quay [ki:] c wool [wʊl]
 - d guard [gɑ:rd] e dough [dóu]
- (2) deepening = and deepened
分詞構文であるが、後に the terrors という名詞があるため他動詞を入れる。したがって自動詞である going / deteriorating / expiring は不適。この分詞構文の主語は主節の主語と共通であるから、expecting は不適。
- (3) 初めの空所⑧に入る since は前置詞で ever since the first slight noise (最初のわずかな物音以来ずっと) となるが、次の空所⑨に入る since は副詞で ever since (それ以来ずっと) となる。
- (4) nothing but A = but A = only A となる。最初の空所の but は except (~を除いて) の意味であるが、次の空所の but は only の意味である。最初の空所の後に it is only a mouse crossing the floor や It is merely a cricket という表現が続くことから予想できる。
- (5) どちらも It is ~ that (which) … の構文だが、③はいわゆる強調構文であり caused の主語である the mournful influence を強調している一方で、②は強調構文ではなく、it は the first slight noise を指す指示代名詞であり which は cricket を先行詞とする関係代名詞である。
- (6) such A as B = A such as B であり、when の後には it is が省略されている。この as は関係代名詞として用いられ、such a sound as a watch makes when it is enveloped (← a sound which a watch makes when it is enveloped) と書き換えられる。such a watch as makes と考えると、such a watch という名詞が前後とつながらなくなる。

全訳

まもなく、かすかなうめき声が聞こえてきました。そしてその声は死への恐怖から出たうめき声だということがわかりました。苦痛や苦悩からのうめき声ではありません。全く違います。それは、恐怖で圧倒された時、魂の底から発生する息を押し殺した低い音でした。私

はこの音をよく知っていました。夜になるとしょっちゅう、世界が寝静まったちょうど真夜中に、その音は私の胸から沸き上がってきて、恐ろしいこだまとなって、恐怖心を深め、私を取り乱したのです。本当にそれをよく知っていたのです。私は老人が何を思っているかも知っていました。だから内心ではほくそ笑んでいたものの、老人を哀れに思いました。最初にかすかな音を耳にして、ベッドの中で寝返りを打って以来、ずっと目を覚まして横になっていたことも分かっていました。それ以来ずっと、老人の恐怖心はどんどん大きくなっていったのです。彼は偶然のいたずらだと考えようとしたのですが、できませんでした。それで自分にこう言い聞かせていたのです。「今の音は煙突に風が吹き込んだだけにすぎない。床をネズミが横切っただけだろう。」とか、「②今の音はちょっと鳴いたコオロギにすぎないだろう。」と。そうなのです。その老人はこんな想像で自分を慰めていたのです。けれども彼にはそれがすべて無駄であると分かりました。何をしても無駄なのです。というのも死神が老人に近づいて黒い影と共に忍び寄り、老人を影の中に包み込んでしまったのです。③老人には見えも聞こえもしなかったけれど、その部屋の中に私が頭を入れていると老人に感じさせていたのは、姿の見えないこの影が与える不気味な力だったのです。

老人がベッドで横になる音を聞くこともなく、ずいぶん長い時間じっと辛抱して待っていた時、私は、少しだけ、本当にほんの少しだけ手提げランプの覆いを開けてやろうと決心しました。そして覆いを外しました。どれくらいひっそりと、ひっそりと外したかは想像できないでしょう。そしてついに、蜘蛛の糸のような一筋のほんやりした光が、外した覆いの隙間から漏れて、あのハゲワシのような目の上に完全に注がれたのです。

目は開かれていました。大きくぱちりと見開かれていました。その目を見つめていると、激しい怒りを感じてきました。私には老人の目がはっきりと見えました。まさしく骨の髄まで凍り付かせた、恐ろしい膜のはった淡い青色の眼全てが見えました。けれども私には老人の顔も体も見えませんでした。というのはまるで本能的にそうしたかのように、私は正確にあの忌まわしい眼へと光を向けていたからです。

あなたが私が狂っていると勘違いしているのは、単に神経がひどく過敏であるだけだと先ほど話しました。今度は低く、鈍い、威勢の良い音が聞こえてきたのです。綿でくるまれた時計が出すような音です。この音も私はよく知っていました。それは老人の心臓の鼓動でした。太鼓の音が兵士を奮い立たせるように、その音は私の怒りを煽ったのです。

【7】

解答・解説

- (1) Lungs are to the body what leaves are to the tree.
 - A is to B what C is to D. 「AとBとの関係はCとDとの関係と同じである。」
- (2) It began to thunder and, what was worse, I found that I had left my umbrella in the restaurant.
 - what is worse 「さらに悪いことに」
 - cf. what is more important (さらに大切なことには)
- (3) Who that knows Mayu can ever hate her?
疑問詞 who を先行詞とする場合、関係詞は that になるのが通常。

- (4) She is not what you suppose her to be.
 ○ what S be 「現在のSの状態」
- (5) In those days, we were leading what you call a hand-to-mouth life [existence].
 ○ what you call = what we call = what is called 「いわゆる」
 ○ hand-to-mouth 「その日暮らしの」
- (6) What with joy and (what with) shame, her face turned brilliant red.
 ○ what with A and (what with) B 「AやらBやらで」《原因》
 ○ what by A and (what by) B 「AやらBやらで」《手段》
- (7) Five hours went by like so many minutes.
 ○ like so many ~ 「まるで(同数の) ~のように」
Ex. I made five mistakes in as many lines. (5行で5個のミスをした。)

【8】

A.

解答・解説

- (1) failed
 ○ 「(物・事・人) がいざという時に~の役に立たない；~を失望させる；~を見捨てる」の意の fail。
Ex. My tongue failed me. (言葉がどうしても出なかった。)
- (2) smells
 ○ smell C (形容詞) 「~の匂いがする」
- (3) makes ; difference
 < make a difference 「相違を生じる；影響する；重要である」
 = It matters little to me
- (4) owe
 ○ owe 「① (人に金銭上の) 借りがある ② (人に~のことで) 恩恵を受けている」
- (5) come
 ○ How come ~? = Why ~? 「どうして…か」
- (6) make
 ○ make it 「①うまく行く ②間に合う ③都合がつく」
- (7) do ; long
 ○ 「間に合う；役に立つ；ちょうどよい」の意の do。
 ○ so [as] long as … 「①…する間は《時》 ②…さえすれば《条件》」

B.

解答・解説

- (1) (b) bear (c) borne (d) born
 (a) 「彼は肩に重い荷物を背負っていた。」《過去》
 (b) 「この布地は洗濯できない。」《原形》
 ○ bear …ing 「…することができる；…する必要がある」

意味上 …ing は主語を目的語にしていることに注意。

(c) 「あなたに悪意を抱いたことはない。」《過去分詞》

○ 「(恨み, 愛憎を) 心に抱く」

○ malice 「悪意」

(d) 「彼は 1967 年にアバディーンで生まれた。」《過去分詞》

○ 「生まれた」の意味を表す場合, 後に by ~ が続く時は borne, それ以外は born を用いる。

(2) (b) deny (c) denied (d) denial

(a) 「その事実を否定しても無駄である。」《動名詞》

○ it [there] is no use …ing 「…しても無駄である」

(b) 「彼は息子に彼らの提案を拒ませた。」《原形》

have O do 「Oに…させる [してもらう]」

cf. have O done 「Oを…される [してもらう]」

(c) 「彼女はそれは事実ではないと言ったし, 他の人々もまたそうであった。」《過去》
'so + 助動詞 + S' 「Sもまた…である」

○ did で受けていることから, 主節の動詞は過去形。

(d) 「私は彼にきっぱりと断りの返事をした。」《名詞》

○ give a flat denial 「きっぱりと断る」

(3) (b) satisfying (c) satisfied (d) satisfaction

(a) 「この絵にはみんなが満足するだろう。」《原形》

(b) 「その本の内容は満足 of いくものだった。」《現在分詞》

○ 「人を満足させるような」satisfying, satisfactory

(c) 「彼女はその結果に満足したようだった。」《過去分詞》

○ 「人が満足して」satisfied

(d) 「あなたの仕事には満足させられます。」《名詞》

(4) (b) bored (c) boring (d) boredom

(a) 「彼のつまらない話には君もきつとうんざりするだろう。」《原形》

○ bore 「～を退屈させる」

(b) 「私はそのゲームに完全に退屈した。」《過去分詞》

○ be bored 「退屈する」

(c) 「彼らはその本をとて退屈だと思った。」《現在分詞》

○ 「人を退屈させるような」→ boring

(d) 「彼女は単調で退屈な生活に落胆しているようだ。」《名詞形》

【9】

解答・解説

(1) b

○ 女性に関する一般論であるから, married → marries または gets married とする。

○ start は不定詞・動名詞いずれも伴うことが可能。

「女性は結婚するとミセスという肩書を持ち、夫の名字を使い始めることが多い。」

(2) c

○ want to know では「(自分が結婚しているかどうか)を知りたくない」という意味になってしまう。want others to know ならば「他人に知られたくない」となり可。

「ミズという肩書は、1970年代に、既婚かどうかを知られたくない女性を使い始め、それ以来広く使われてきた。」

(3) c

○ depends は depending として分詞構文にすべき。

「イギリスでは5歳から16歳の子供は全員学校に行かなければならない。アメリカでは、6歳から14歳または16歳(子供の住んでいる州による)の間は学校に行かなければならない。」

(4) b

○ listened his “fireside chats” は listened to his “fireside chats” とすべき。

「フランクリン・デラノ・ルーズベルトは人気が高く敬愛された大統領で、多くの人々がラジオにおける彼の『炉辺談話』に耳を傾けた。その中で彼は、国内で起こっていることや彼が行っていることについて、人々に語った。彼はテレビに出演した初めの大統領であった。」

(5) a

○ do not make の主語は having a lot of money 「金をたくさん持っていること」。動名詞句は単数扱いであるから、do は does とすべき。

「多くの上流階級の人々は金持ちで大地主であるかもしれないが、大金を持つことによって上流階級になれるのではない。特定の家系出身であること、ふさわしい友人を持つこと、ある種の私立学校に通ったということ、正しいアクセントで話すことなども重要である。」